

数字で見るこの1年

平成25年になって初めての発行となる市議会だよりでは、議会活動『数字で見るこの1年』と題し、昨年1月から12月までの議会活動について、1年間のデータをもとに紹介します。

一般質問通告項目

(164項目中、上位を掲載)

順位	質問項目	件数
1	放射性物質対策	21
2	教育行政	19
3	防災行政	13
4	保健福祉行政	11
5	上・下水道行政	8
	清掃行政	8
7	土木行政	6

市議会で行う会議には本会議と委員会があります。本会議は議員全員が議場に集まり、市議会の最終的な意思を決定する会議です。市長などに一般質問を行い、市政全般についての所信を問うことや、市議会に提出された議案及び市議会としての意見表明などの議決はすべて本会議において行われます。

委員会は、常設の常任委員会、議会運営委員会、広報委員会、さらに必要に応じて設置される特別委員会に区分されます。市議会を取り扱う案件は数が多く、内容も幅広い分野にわたっているため、常任委員会を

年間89回の
会議を開催

案件及び議決の状況

案件別 議決結果	市長提出案件					議員提出案件			請願	陳情	合計
	条例	予算	決算	契約	専決処分 その他	条例	意見書 その他	その他			
可決	31	29		4	17		7	1			89
修正可決											0
否決							7				7
同意					8						8
認定			8								8
承認					3						3
推薦											0
採択									3	1 (1)	4 (1)
不採択									1	8	9
取り下げ											0
閉会中 継続審査											0
合計	31	29	8	4	3	25	0	14	4	9 (1)	128 (1)

() は平成23年閉会中継続審査によるもの

4つの部門（総務・環境経済・文教福祉・建設）に分けて専門的かつ効率的に審査・調査をしています。

平成24年は、本会議26回、常任委員会26回、特別委員会12回、議会運営委員会、活性化等検討委員会及び広報委員会25回で、合計89回の会議を開催しました。

審議案件は

年間129件

市議会では審議される案件には、市長提出の案件と議員提出の案件、さらに請願や陳情があります。

一般質問に 47人が登壇

平成24年は、市長提出の案件が100件、議員提出の案件が15件、請願・陳情が14件で、合計129件を審議しました。

平成24年は、一般質問に延べ47人の議員が登壇し、164項目の多岐にわたり、活発な質問を行いました。主な質問項目については、上記のとおりです。

379人が議会を傍聴

市議会は、原則として本

インターネット 議会中継の アクセス件数

平成24年のインターネットによる本会議放映のライブ中継で2千231件、録画中継で2千913件のアクセスがありました。

全国の地方議会から 217人が来訪

平成24年も、公契約条例のほかに、コウノトリとの共生や飼育に向けた取り組み、災害時要援護者支援計画、災害時協力井戸登録制度、まめバス、放射性物質に対する学校給食の取り組み、地域教育プラットフォーム事業など14項目について、県議会や政令指定都市などを含む全国39の地方議会から、延べ217人の議員等が視察に訪れました。

常任委員会

行政視察報告

総務委員会

(10月17日から19日)

【視察先・項目・所見】

◎香川県丸亀市

・行政評価について
市が提供するサービスが市民生活にどのような成果として現われているか、効率性、有効性などの観点から妥当であるかを客観的に市が評価し、結果を行政活動全般の改善に結びつけていこうとするものである。

検討の余地はあるものの他市に先駆け行政サービスの改善・向上に取り組む姿勢として大いに評価するものであり、活動は大変参考になった。

◎大阪府大東市

・自治基本条例について

大東市の自治基本条例は市の最高規範性を有し、他の条例や計画は、この条例の趣旨に反して策定することは不可とする位置付けで、市制施行50周年記念の一環として、市民との協働作業で進めた。

・アドプト制度という市民

が道路や河川などの公共施設の清掃をする協定を結び、ことで、ボランティアで管理する制度を導入していることは参考になる。また、子ども議会を実施しており、違った側面からの取り組みをしていることは評価できると改革が進んでいると感じた。

◎滋賀県大津市

・企業局 お客様センター開設事業について
水道ビジョンの中で、業

務及び経営の効率化の一環としてアウトソーシングの活用を検討し、平成22年4月1日より検針業務、窓口受付業務、料金等の収納業務等を(株)ジェネッツに業務委託し、「企業局お客様センター」を開設した。

お客様センター開設前から収納率は高く、収納率が99%前後で推移していることは驚きだった。野田市も、どうすればこのようなまちにできるのか、改めて考えるきっかけとなった。



大東市視察

環境経済委員会

(10月10日から12日)

【視察先・項目・所見】

◎奈良県生駒市

・陶磁器製食器、ガラス製食器回収、選別、仕分け及

びりユース業務について

家庭内で不用になった陶磁器製などを公共施設等で回収し、食器市を開催して無料配布を行うことで、再利用(リユース)を推進し最終的に再利用ができないもののみ再資源化を行い、環境負荷の低減を図り、循環型社会の構築を目指すことを目的としている。

1人の主婦から市民団体、NPO法人へと活動を広めていることは、生駒市におけるごみ減量化、リユース、リサイクルの推進につながるだけでなく処分費用の削減につながるものであり、大いに学ぶべき点だと思う。

◎愛知県刈谷市

・刈谷市環境都市アクションプラン
「低炭素社会をめざして」についてなど

市民・事業者・大学・行政が連携・協力し、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出の少ない低炭素型のまちづくりを進め、持続可能で快適な「環境都市」を実現することを目的として策定した。

エネルギーの取り組み推進支援として、ワンストッ

プサービス(相談窓口)の設置など多くの施策が策定されており、野田市においてもメリット・デメリットや費用対効果なども考察しながら、今後反映させるべきと考える。

◎長野県飯山市

・岳北広域行政組合エコパーク寒川について

1市2村のごみ焼却・破砕処理施設。堅型ストーカー式で、炉内には可動部がなく助燃材も不要であり焼却対象物の発熱変動を均質化できることから熱回収率がよい施設である。

焼却炉については、構造はシンプルで燃焼効率のよい炉であり、今後、野田市においても新清掃工場建設の参考にしていきたい。



飯山市視察